

ならちゅうしん経営研究会 例会報告

第 385 回 研究会

日 時 令和 7 年 4 月 16 日(水) 正午～
場 所 大阪市夢洲 大阪・関西万博会場
内 容 2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」視察

今回の研究会は、4 月 13 日より開幕しました大阪・関西万博を視察しました。

会場となる夢洲駅前に集合し、冒頭、芳仲会長より“前回、大阪で開催された E x p o 1970 では、携帯電話や電気自動車、リニアモーターカーなど現在、主流となっている技術が展示された。万博は未来の生活のヒントを得る絶好の機会である。今日は未来に向けた日本の発展、我々の会社の発展のヒントを勉強しましょう”とご挨拶を頂きました。

2025 年日本国際博覧会（略称「大阪・関西万博」）は“いのち輝く未来社会のデザイン”をテーマに、「いのち」を考える万博として、世界が一つの「場」に集う機会となり、万博を契機として世界の多様な価値観が交流しあい、新たなつながりや創造を促進し、世界的な危機を乗り越え、一人一人のいのちを守り、いのちの在り方、生き方を見つめ直すことで、未来への希望を世界に示す万博で、大阪では 55 年ぶりの開催となり、世界中より 158 もの国と地域、9 つの国際機関が参加する大イベントです。

まず、最初に経済産業省が出展する「日本館」を見学しました。日本館は万博会場で出たゴミをエネルギーに変換し“いのち”の循環を知る「生きたパビリオン」です。生産→消費→分解を繰り返す循環は、日本の美意識の一つと言え、日本館ではバイオガスピラントを併設し、生ゴミをエネルギーに変換する過程をインスタレーションで追体験しながらゴミから新たな資源やエネルギーが生まれるさまを体験でき、持続可能な社会の在り方考える機会となりました。

続いて、関西広域連合が出展する「関西パビリオン」を見学しました。関西パビリオンは過去を見直すことで見えてくる未来「いのち輝く関西悠久の歴史と現在」をテーマに、関西各地の歴史をひも解き未来像を感じてもらおうというコンセプトのパビリオンで関西地方の魅力を発信するべく、各府県が趣向を凝らした展示を展開していました。地元奈良県では県内の市町村が特別にブースを出展し観光資源や地域製品の P R に頑張っておられました。

2 つのパビリオンの見学後は、自由行動とさせて頂き、諸外国のパビリオンの見学や、世界最大の木造建築物である大屋根リングを回遊するなど、夜遅くまで楽しんで頂きました。今回の視察は、世界の知見を吸収でき自社における未来に向けての経営を考えるうえで大変参考になったかと思います。

以 上



EXPO 2025 Osaka Kansai Japan 東ゲート前



日本館



関西パビリオン